

紡績工場の生産能力と機械類の設置台数
 紡績工場の生産能力を示すのは「精紡機の錘数」
 ほかの機械は精紡機的能力との均衡で設置される

労働省職業安定局『職務解説 綿糸紡績業』1978 年、14－15 頁。

紡績工場の機械設備

紡績工場の生産能力を表現するには一般に精紡機の錘数を以てする。これは精紡機は糸に仕上げる最後の工程であり、この能力が糸を造る能力を示すものであると共に、工場の機械は総べて精紡機的能力との均衡において設備されているからである。

次に錘数 10 万を超える大規模工場における各種機械種別台数は略次の如くである。

1. 混棉機	8 台
2. 打棉機	15 台
3. 梳棉機	400 台
4. 練条機	27 台
5. 粗紡機	51 台
6. 精紡機 (102,296 錘)	240 台
7. 捲糸機	52 台
8. 合糸機	6 台
9. 撚糸機	19 台
10. 捻機	30 台
11. 玉締機	3 台
12. 荷造機	2 台
13. 棒綿切機	1 台
14. 篠切機	1 台

考 察

紡績工場の生産能力は「精紡機の錘数」で上限が決まる。実際には、製造する紡糸の番手などにより精紡機の回転数が変わるから、毎年の生産量を比較するのはほぼ不可能である。つまり紡績工場の生産能力とは、ある番手の糸を製造したときの最大生産量という抽象的なものである。しかしそういう抽象的な値として生産能力という上限は確実にある。

ほかの機械類の設置台数はこれに合わせて決まる。ほかの機械類の生産能力は、精紡機を生産能力を上回る（むだにしないようにする）必要があるが、1 台分以上は上回らないようにするのが理想値になる。